

〈 セミナーのご案内 〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

教授法・FDシリーズ16(通算448回)

2009年12月14日(月)

大学教員養成の危機と活路 —

TAの活用強化策とPFFプログラムの展開

高等教育活性化シリーズ159(通算449回)

2009年12月17日(木)

GPAの“算出方式”の革新から —

成績評価の厳格化とGPA活用の進化II

大学教員養成の危機と活路 —

TAの活用強化策とPFFプログラムの展開

～大学院生の教育力向上／大学教員準備Pの構築と実践～

- ※ [米国大学] TA制度の活用(業務内容・勤務時間・報酬等)／PFFプログラムの動向
- ※ 学部・大学院教育の改善強化を共働するTA／各大学の活用事例／制度の新たな試み
- ※ シラバス・到達目標の書き方／“強制連結法”を利用した授業設計／ミニ演習による体験
- ※ 米国・カナダのPFFの事例／ティーチング&ラーニングポートフォリオの連動と活用

● 講師陣 ●

吉良 直 氏 / 日本教育大学院大学 教授
北野 秋男 氏 / 日本大学 文理学部 教授
井上 史子 氏 / 立命館大学 教育開発推進機構 講師
土持 啓一 氏 / 弘前大学 21世紀教育センター 高等教育研究開発室 教授

2009年12月14日(金) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)

GPAの“算出方式”の革新から —

成績評価の厳格化とGPA活用の進化II

～絶対的相対評価／教員間調整／functional GPA～

- ※ GPAと厳格な成績評価／教育の質保証とその約束／GPA算定における尺度の範疇錯誤
- ※ GPAを中心とした成績評価制度の運用とその課題／運用中・近々導入・検討中の論点整理
- ※ 堅牢にして柔軟な成績評価システム／絶対的相対評価とfunctional GPA／IT整理

● 講師 ●

半田 智久 氏 / お茶の水女子大学 教育開発センター 教授

2009年12月17日(木) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)



地域科学研究会・高等教育情報センター

[参加要領]

日時 : 教授法・FDシリーズ 16 「TAの活用強化策とPFFプログラムの展開」
 2009年12月14日(月) 9:30~16:50
 高等教育活性化シリーズ 159 「成績評価の厳格化とGPA活用の進化II」
 2009年12月17日(木) 13:00~16:50
 会場 : 剛堂会館(明治薬科大学)会議室 (東京・麹町) ※両日程、同会場です
 東京都千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口から徒歩4分、JR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口から徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
教授法・FDシリーズ 16 TAの活用強化策とPFFプログラムの展開	42,000円 (消費税込)	43,000円(送料、消費税込)
高等教育活性化シリーズ 159 成績評価の厳格化とGPA活用の進化II	35,000円 (消費税込)	36,000円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。

受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替:00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(なお、ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106

TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2009年 月 日

- 教授法・FDシリーズ 16 TAの活用強化策とPFFプログラムの展開
 当日参加 メディア参加
 ■高等教育活性化シリーズ 159 成績評価の厳格化とGPA活用の進化II
 当日参加 メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 請求書(要 不要)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
9:30 〃 11:00	<p>□ 米国大学におけるTA養成制度とPFFプログラムの動向 ～大学教員養成システムの実態～</p> <p style="text-align: right;">日本教育大学院大学 吉良 直</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程教育におけるTA制度の発展背景と概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) TA制度発展の背景 (2) TA制度の概要(業務内容、勤務時間、報酬等) (3) TA制度の成果と課題 2. TA養成制度の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全学的な訓練・養成制度 (2) 学問分野ごとの訓練・養成制度 (3) TA養成制度の成果と課題 3. 大学教員準備プログラム(PFF)の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) PFFの概要と発展の背景 (2) PFFの特徴と成果・課題 (3) PFFと「pff」の現状 (4) ティーチング・ポートフォリオによる振り返り 4. 大学教員養成システムの今後の展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 二種類の養成プログラムの関係と今後の展望 (2) 日本への示唆 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>
11:10 〃 12:40	<p>□ 我が国のTA制度の活用・強化への提言 ～学部・大学院教育の改善～</p> <p style="text-align: right;">日本大学 北野 秋男</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TA制度の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) TA制度の起源と発展 (2) 各大学のTA活用事例 2. TA制度による授業改善 <ol style="list-style-type: none"> (1) TAによる授業改善の検証 (2) TAによる授業改善の課題 3. TA制度の新たな試み <ol style="list-style-type: none"> (1) TA養成と単位化の試み (2) 授業担当の試みと課題 4. TA制度と学部・大学院教育のあり方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「研究重視」から「教育も重視」へ (2) 若手教育者・研究者の養成 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>
13:40 〃 15:10	<p>□ PFFプログラムにおける授業設計の方法と展開 ～シラバスの書き方/強制連結法の特徴と活用～</p> <p style="text-align: right;">立命館大学 井上 史子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスと授業の到達目標の書き方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 観点別教育目標の理論 (2) 領域(観点)別到達目標を明示したシラバスの具体例 (3) 領域(観点)別到達目標記述の際の留意点 2. 強制連結法を利用した授業設計 <ol style="list-style-type: none"> (1) イメージマッピングの種類 (2) 強制連結法の特徴 (3) 強制連結法を利用した授業設計の方法 3. [ミニ演習] 強制連結法を利用した授業設計の体験 4. まとめ <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>
15:20 〃 16:50	<p>□ 大学教員養成プログラム(PFF)の構築 ～ティーチング/ラーニング・ポートフォリオを活用して～</p> <p style="text-align: right;">弘前大学 土持ゲアリー法一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカのPFFプログラム(ミネソタ大学の事例) <ol style="list-style-type: none"> (1) PFF(単位制)プログラムの役割 (2) GRAD8101 高等教育の理論のシラバス (3) GRAD8102 高等教育の実習のシラバス 2. カナダの大学教員養成プログラム(ダルハウジー大学の事例) <ol style="list-style-type: none"> (1) 大学教員養成(認定書)プログラムの役割 (2) 4段階方式認定書プログラム(履修生へのインタビュー) (3) 州政府の教員養成制度に対する支援(税の控除対策) 3. PFFにおけるティーチング・ポートフォリオの二つの役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 形成的評価～ティーチング・フィロソフィーの確立 (2) 総括的評価～求職活動としての役割 (3) ファカルティ・メンターの役割 4. PFFとラーニング・ポートフォリオ <ol style="list-style-type: none"> (1) GRAD8101への新たな導入 (2) ティーチング・ポートフォリオにラーニング・ポートフォリオを組み入れる (3) ティーチング・ポートフォリオとラーニング・ポートフォリオの関係 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>

時間	講義項目
13:00 ～ 14:00	<p>□ GPAと厳格な成績評価：教育の質保証とその約束</p> <p>厳格な成績評価という文脈下でのGPA（Grade Point Average）制度、教育の質保証とその約束という観点から再考してこの有効な手段に何が欠損しているのか。</p> <p>(1) GPAの諸効能と革新性についての確認 — これは単なる成績の平均点とはわけがちがう ～GPAとはどのような性質をもったPerformance Indexなのか</p> <p>(2) 厳格・厳正な成績評価は教育の質保証の基本要件 ～大学が約束できることから</p> <p>(3) 現況のGPA算定が孕んでいる根源的問題 — 尺度の範疇錯誤と成績ロンダリング ～バナキュラーな特性を背景として</p>
14:10 ～ 15:10	<p>□ GPAを中心とした成績評価制度の運用とその課題 ～参加者からの簡単、気軽なたちでの事情紹介と課題の集約～</p> <p>(1) すでにGPA制度を運用している大学の参加者から</p> <p>(2) 近々GPA制度を導入する大学の参加者から</p> <p>(3) GPA制度の導入を検討ないし気にしている大学の参加者から</p> <p>(事前に参加者から上記3カテゴリーのどこに該当し、それぞれにどのような課題や疑問、確認点をもっているかを簡易にアンケートし、その回答結果をもとにしながら、参加者ごとにその内容をあらためて開陳しあい、課題を全員で共有し整理する。)</p>
15:20 ～ 16:20	<p>□ 堅牢にして柔軟な成績評価システム ～絶対的相対評価とfunctional GPA～</p> <p>(1) GPA算定に潜む根源的問題の解決 ～原成績リニア変換と最適互換性を備えた「使えるGPA」：functional GPA</p> <p>(2) スマート・スコアリング・ツールの活用と提供 ～インターフェースソフトウェアとして</p> <p>(3) 教員個々の裁量行為と成績評価 ～人間の遂行可能域と制度による補完的コラボレーション</p> <p>(4) 国際通用性をもった成績評価制度としての今後の展望</p>
16:30 ～ 16:50	<p>□ 質疑応答</p>